

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200453		
法人名	社会福祉法人 唐津福祉会		
事業所名	栄荘グループホーム		
所在地	唐津市東唐津2丁目6番22-2号		
自己評価作成日	平成29年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年1月24日	外部評価確定日	平成30年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>栄荘グループホームのある東唐津地区の高齢化は40%を越えており、それに伴い認知症を有する高齢者の数もますます増加している。栄荘グループホームは、隣接する小規模多機能型居宅介護・みつしま荘と共に地元住民の方々によって、交流の場として認識されていると共に高齢者福祉施設の拠点施設としての役割を担っている。協力医療機関は地元の診療所であり入居者全員が協力医療機関を主治医としている。異常・急変時は、夜間であっても対応して頂けるよう協力体制を確立している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>唐津市街地の東部、唐津城近くの静かな住宅街に建つグループホームである。唐津城下の落ち着いた雰囲気の中、海や川にも近く自然豊かであり、地元で育った利用者にとって心落ち着く居住環境と思える。地域住民の高齢化にともない、地区内に認知症対応の施設が欲しいとの民生委員や関係者の要望から開設しており、地元とは協力関係ができています。連続して宿泊ができる個室のグループホームは利用者や家族にとって安心できる居住地となっている。地域住民を招き、利用者・家族・職員と一緒に食事を楽しむ「地域交流会」が毎年開催されている。交流会では踊りなども披露され、地域住民と利用者・職員がより親しくなる機会となっている。交流会後には参加された地元住人から声をかけられることも多くなり、認知症に関する相談を受けることもある。開設の経緯から地域の協力が得られやすく、母体法人が認知症や介護の専門であることから利用者・家族にとって安心して支援を受けられる事業所となっている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に職員全員で理念の唱和を行っている。毎月の勉強会で、理念に基づいた生活支援となるよう協議している。	利用者の心に寄り添い、笑顔でその人らしい生活を支援するという理念をつくっている。理念は、事業所開設当初に職員皆で作上げたものである。職員は利用者個々に合わせた対応や言葉づかいに気を付け、管理者は職員に行き過ぎが無いが、実践されているか、さりげなく見守っている。ホールの壁に大きく書かれた理念を掲示しており、理念の意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地元(東唐津)地区の行事、東の浜清掃活動・公民館の除草作業への参加交流。運営推進会議委員・地元消防団の参加による避難(火災)訓練を行った。また、地域住民の方の参加による地域交流会を年1回、行っている。	自治会に入会していないが、地域情報は駐在員を介して入ってきている。地域住民を招いて食事を楽しむ「地域交流会」を毎年開催しており、利用者や家族・職員が地元で溶け込む良い機会となっている。交流会後には、近所の方々から声をかけていただいたり、挨拶や相談を受けることもあり、認知症を理解していただく機会にもなっている。地元の公民館祭りや行事にはできる限り利用者と一緒に参加し、地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民からの介護・福祉に関する相談・対応。主治医や関係機関との協力による独居世帯の方の安否確認・言葉かけを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は1回/2月。事業所全体の状況やサービス提供の状況報告を行っている。委員の方に助言・気付きの意見を貰い、利用サービスに生かすように努めている。	運営推進会議は駐在員や民生委員・行政職員の参加で開催されている。会議では事業所を知っていただけるような情報提供や意見交換がなされている。参加委員から地域の行事予定や地域の防災情報・夜間帯などの話もあり、近隣の見守りや介護相談につながることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	唐津市高齢者支援課・地域包括支援センターへ毎月、みつしま荘と合同で通信を送付している。市高齢者支援・地域包括支援センターから情報提供や助言を随時、受けている。	行政職員が運営推進会議の委員であり、会議後には個別に情報交換している。問題点や分からないことがあれば隣接事業所や母体法人に相談しながら助言をいただいている。利用者や事業所の実情・課題・空き状況等の情報も共有しており、行政と連携を保っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設である『特養栄荘』と連携し、虐待防止及び身体拘束廃止委員会へ参加し、高齢者虐待と身体拘束の現状を話合っている。高齢者虐待防止・身体拘束廃止のための指針を策定している。勉強会を開催し職員の意識向上に努めている。	契約時、家族や利用者に事業所の方針を説明し、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。経営母体の法人内で毎年身体拘束に関する研修を受け、グループホーム会議でも勉強会を開催して身体的・精神的苦痛の無い支援に努めている。身体拘束委員会があり、必要に合わせて機能させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて唐津市社会福祉協議会と連携し、日常生活自立支援事業の説明、紹介を行っている。職員が知識を習得するために勉強会を開催し、知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結について、専門用語をなるべく使用せず、分かりやすい言葉を用いて説明を行っている。説明する時は、ご家族等の都合を確認し、十分な説明を行い、納得された上で契約をかわすようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別に会話が出来る機会を設け、利用者の意見・気付き・不満・苦情を運営に反映させている。また、施設内に意見箱を設置し、意見や要望等の回収に努め、利用者・ご家族との意見交換を常に行っている。また、努めている。	管理者は利用者や家族と話すことを心がけ、意見や要望の把握に努めている。面会時には近況報告をし、意見や要望を聞いている。利用者の要望から外出支援につなげるなど、把握した意見や要望は連絡帳に記入し、職員間で情報共有するとともにできる限り速やかに検討し運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時・連絡ノート・毎月の勉強会などを活用して行っている。	管理者と職員は普段からよく話し、何でも言える関係である。年に複数回、隣接事業所職員と合同で食事会を開催するなど、職員同士の仲も良い。管理者は職員の意見や要望に耳を傾け運営に反映させる姿勢を持っている。勤務表の見直しや利用者個々の介助方法の変更・手順見直しなど、出された意見や要望は運営に活かせるように検討がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は一週間に一回は来所している。目標管理シートを活用し、個々の職員の取り組み・仕事に対する姿勢を把握評価している。また、月終了後は勤務実績を確認し、必要な助言・指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修・唐津福祉会栄荘職員研修会(5～6回/年実施)・事業所内勉強会(1回/月)・職場外研修への派遣・職員の資格取得につながる勉強会の実施を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所とは、必要に応じて情報交換を行っている。また、H27年04月より唐津福祉会所属のグループホームとの責任者会議においてネットワーク作りや勉強会・情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談後、出来る限り早く対応している。対象者の困りごと、不安な事を傾聴し、十分に時間をかけて関係の構築に努めている。また、精神的に落ち着いた生活が送れるようにタクティカルケア等を取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談後、出来る限り早く対応を行うようにしている。相手の立場に立ちご家族が困っていることや不安な事を傾聴することに努めている。また、話がしやすいような雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や本人からの相談内容や状況を確認し、必要なサービスを見極めるようにしている。必要に応じては、地域包括支援センターや当施設以外の利用等を含めて適当な施設等の紹介も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事・おやつ作り・手作業・レクなど生活活動の中での知恵や工夫を教わり入居者と共同でできる関係を築くように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族・親戚・知人が気軽に面会ができる明るい雰囲気作りに努めている。面会時や電話連絡にて必要時には状況を報告し、ご家族の要望や思いを尋ねながら、ご本人の望む生活の実現に近づける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴・生活習慣・対人関係・趣味活動など本人の馴染みのある関係を確認して支援に生かすようにしている。隣接するみつしま荘の利用者との交流を大切にしながら今まで培った馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	入居契約時に思いや希望を聴き、関係継続の支援に努めている。知人や家族の面会時を利用して、情報を得ることもある。自宅付近や思い出の場所・訪れたい場所・ドライブなど利用者から要望が出た場合は、外出の機会を利用することができる限り支援するように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、入居者同士が楽しく快適に過ごして頂くために座席の配置の工夫をしたり、できる事は一緒に手伝ってもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時は、職員が定期的にお見舞いを行っている。また、ご家族にも連絡をとっている。契約が終了した時も相談に応じる姿勢をご本人・ご家族に示し、相談があれば丁寧に対応を行っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人一人の思い、生活上の希望やご本人・ご家族の意向を聞き、職員間で情報の共有に努めている。ご本人・ご家族・職員と協議し、一人一人の思いや暮らし方に添えるように努めている。	心に寄り添ってその人らしい生活を支援するという理念があり、職員は利用者の言葉に耳を傾け思いや意向の把握に努めている。発語の少ない利用者には、入浴介助で二人きりになる時やレクに参加している時など話しやすい環境を作って聞いている。知り得た利用者情報は職員間で共有し、支援に活かしている。利用者の希望から、みんなでケーキを食べに行くこともあった。	
----	-----	---	--	--	--

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで得た情報や面会時に随時、得た情報をもとに状態の変化にも気を配っていく。ご家族等と連携をしていく中からも情報を得て今後の生活につなげられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の一日の過ごし方や心身の状態、残存機能を確認して上で継続した生活が送れるようにケアマネジメントを行う。職員間で連携をとり状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会や必要時に出来る限り入居者やご家族の希望や思いを伺って取り込んでいけるようにしている。一方、職員の意見・気付きを聴き参考にし、介護計画を作成している。	利用者や家族から要望を聞き、具体的な介護計画が立てられている。ケアプラン実行表で短期目標毎に毎日チェックし、毎月のモニタリング、6ヶ月ごとの評価が実施され、現状に即した介護計画が作成されている。1年毎及び退院時にはサービス担当者会議を開催し、主治医や家族・職員の意見を聞きながら介護計画の変更につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の入居者の状態やケアの状況を個別に記録をし介護計画に反映している。朝礼(朝の申し送り)での連絡、報告を随時、行っている。定期的にモニタリング・カンファレンス・サービス担当者会議への職員も参加を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活する上で変化する状況・身体状態・要望に対して柔軟にまた、早く対応ができるような支援を心がけている。入居後も協力して一人一人を支えるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が地域の中で生活の安定や拡がりを持つように民生委員や駐在員、地区消防団、近所の方々などへの協力を働きかけている。毎月、地域には回覧板で小規模との合同の通信をお届けしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診はご家族と協力し、主治医による往診と必要時に受診をしている。通院時の送迎はご家族・職員が行い、ご家族が付き添う場合は、診察結果や薬等について確認をもらっている。その際、職員から日常の状態も伝えている。	訪問診療で殆ど毎日医師が往診に訪れ、早朝・深夜・緊急時にもすぐ対応していただける関係から、事業所の協力医への受診変更をお願いしている。専門医などは利用者や家族の意向を大切にしてお入り前からのかかりつけ医の継続受診も支援している。通院は家族の送迎を基本としているが、職員での対応もなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は主治医・看護職員と協力し入居者の健康管理に努めている。状態の変化やご本人の不安・訴えなどを連絡・相談している。緊急時は、協力医療機関や母体施設と共に連携し医療的な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された場合は、定期的にお見舞いし、ご本人の様子確認を行い、関わりを持っている。ご家族・病院関係者と共に連携し、主治医に随時、報告を行っている。また、退院時は、注意事項や入院中の状態を聞き取り・確認を行っている。職員に報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の意向について、随時、本人及びご家族に主治医・職員より確認を行っている。実際の終末期には主治医に相談し施設ですることとできないことをご家族に説明し、ご家族も含め全員で取り組んでいる。	「入居者の急変時及び看取り時の対応に係る指針」があり、契約時に本人及び家族に説明が行われ、同意を得ている。入居者の異常時・急変時の対応と連携体制もできており、利用者・家族・主治医・事業所は方針を共有している。これまでに看取り経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に備え『介護マニュアル』作成。早期発見・急変時の対応のために見守り・巡回を行っている。勉強会において急変時の対応のスキルアップを図っている。また、随時、主治医に連絡をとれる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成している。年2回の避難訓練を実施している。唐津消防署・運営推進委員の協力を得て訓練を行っている。	年2回の消火・通報・避難訓練と1回の原子力災害を想定した屋内避難の防災訓練が実施されている。事業所が海拔2メートルという立地から、今後もう1回水害を想定した防災訓練も追加する予定である。訓練には、利用者や消防団員・運営推進会議委員も参加している。原子力災害対応避難(行動)計画・土砂災害(河川の氾濫)対応マニュアルがあり職員は防火・防災知識がある。職員はAEDの研修を受けており、消火器も使える。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの人生を振り返って活躍していた時や思い出等を傾聴し、共感するように心がけている。職員が入居者の自尊心やプライバシーを損なわないように言葉かけや支援をできるように気をつけている。	個人情報の取得・開示についての同意書があり、取得・開示・保護規定を契約時に説明している。写真や氏名の取り扱いは特に慎重にし、事業所内だけか外部に出して良いか確認をとっている。職員は利用者に話しかける時、肩に少し触れてから声を掛けるなど、突然びっくりさせないように配慮している。名前を呼ぶ時は、一人ひとりその人が好む呼び方をするように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ分かりやすい言葉掛けに努めている。入居者へは、自分の思いや希望を表現して頂ける様にオープンエスチョンを基本に言葉かけやコミュニケーションを図る様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活を送る中で、一人一人の行動パターンやリズムを良く観察し、どのように過ごしたいか希望や思いを確認しながら望む生活が実現できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れや着衣の乱れ、季節ごとの衣類の調節などに気をつけて身だしなみができるように支援を行っている。季節ごとの衣替えや補充等はご家族に協力を依頼している。入浴準備等、自分で出来る方は用意してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、その日の献立の紹介を行っている。また、献立のメニューを記入して頂いている。年間を通じて季節の行事にちなんだ茶話会や食事をはさんで行事を計画し、入居者と職員と一緒に準備や後片付けを行っている。	食事は3食とも母体法人から運ばれ、ご飯は事業所で炊いている。献立は母体法人の管理栄養士が2週間分ずつ立てているため、利用者の希望を取り入れるのが難しい。しかし、検査職員が感想と一緒に利用者の意見や好み・要望などを伝えており、次回の献立作りに反映されることもある。量や味付け・盛り付けは申し分なく、美味しい。利用者も殆ど完食されている。おしぼりの準備など利用者のできることは見守りながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により、栄養バランスのとれた献立を調理し食事を提供している。また、食事制限の相談をし各入居者の病状に応じた食事を提供している。また、水分補給に気をつけて摂取量を記録している。お茶以外にコーヒーや紅茶等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員全員が認識しケアに努めている。毎食後、本人の状態に応じた口腔ケアを実施している(スポンジブラシ・歯間ブラシを使用している)		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の状態に応じたパンツやおむつを使用し、それぞれの残存機能に応じた自立の支援を心がけている。	殆どの利用者は自分で尿意を伝えられる自立であり、職員の支援を受けながらトイレで排泄されている。布パンツの人も複数いる。職員は、利用者の様子や行動パターン・時間などを把握し声掛けやトイレ誘導をしている。紙パンツやパッドなど本人の必要に合わせた支援も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活の指導・水分摂取の言葉かけ、随時の排便チェック記録を実施している。便秘傾向の方は適度に身体を動かしたり、下剤・オリゴ糖を使用している。また、主治医への相談・指示を仰ぎ解消に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の状態を観察し、その日の状態や間隔を考慮しながら実施している。入浴を拒否されたり、嫌がられる方は時間をおき、お話をしながらタイミングを見て勧めるなどの工夫している。入浴は一人ずつ実施している。	入浴は週2回が基本である。浴槽は深く大きい為利用者一人で入浴することは難しい。職員はゆったり入浴していただけるような介助を心がけており、介助職員と雑談を楽しむ利用者もいる。浴場にはリフトが設置されており、職員の負担軽減と身体機能が衰えた利用者の安心にもつながっている。入浴しない時も下着交換は適宜行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日、同じメンバーで共同生活を送り、生活リズムが定着している。ご自分のペースで無理なく過ごしていただけるような対応を心がけている。また、落ちついて休んでいただける様に支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	『薬の説明書』の確認→コピーを貰い、一人一人の確実な服薬に心がけている。主治医・薬局からの指示薬を服用している。また、状態観察をし、随時、報告・相談を行っている。また、内容の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の特技や好きなことを把握し、一人ひとりの生活力・残存機能を活かした役割・嗜好品・楽しみ事・気分転換を図れるように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・ドライブ・地域行事の見物などの機会を見て気分転換の外出支援を行っている。また、ご家族に協力を得ている。	管理者は外気浴の大切さを理解しており、気候の良い日は事業所周りを散歩したり近所のお宅の花を見学に行ったりしている。梨狩りやぶどう狩り・季節の花見ドライブ時は母体法人から車いす対応車両を借り、外出支援に活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員かご家族が付き添い、社会参加や行事等での外出時、ご本人、ご家族へお小遣いの準備を事前にお知らせしている。店での買い物は希望や力量に合わせて見守り支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望ををされる入居者・ご家族に対してプライバシーを配慮しながら個別に対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの掲示物や行事等のスナップ写真を掲示している。施設内の共有空間を快適に利用できるよう清潔保持に努め、居心地よく過ごせるようレイアウト等も必要に応じて変えている。	事業所内は淡い色調に統一され、広く明るくゆったりしており、ホールの天窓からは優しい光が入っていて気持ちいい。24時間換気装置が付いているが、毎朝窓を全開して換気を心がけ、エアコンと空気清浄機・加湿器で温度・湿度を管理をしている。ホール食堂のテーブルまわりは広く、楽しいレクリエーションにも活用されるなど、みんなが集いやすい設えとなっている。食事の準備中には良い香りが食堂ホールに広がり、食事の楽しみにつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで気の合った入居者同士がくつろいで過ごせるようにソファ等々のレイアウトに気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品物が持ち込めるようにご本人・ご家族に相談している。生活用品の不足等も随時、ご家族に連絡し不自由なく過ごせるように配慮している。また、快適に過ごせるように各居室にエアコンを設置し、各人に合わせた温度設定できるように努めている。	居室はクローゼット付きで持ち込んだ荷物のほとんどを収納でき、部屋はすっきり片付いている。壁には写真やカレンダー・手芸小物などで飾られており、職員や家族の協力を得てその人らしい居室づくりがされている。掃除は職員がするが、利用者も手伝うことがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのスペースを広くとり、車いすの利用者・各入居者の方が支障なく利用できるようにしている。施設内の必要箇所には手すりの設置をしている。個人の愛用品や補助用具は特に制限せずに利用して頂いている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない